

上方系いろはカルタの代表的語句

- い 一寸先は闇：これから先のことは、たとえ明日のことでもどうなるかわからないということ。
いやいや三杯：口先だけで遠慮すること。
- ろ 論語読みの論語知らず：本を読んで知っていても、それを実行しないこと。
- は 針の穴から天覗く：自らの狭い見識を根拠として、広い大きな問題に勝手な判断を下すこと。
八十の手習い：高齢になってから字を習うような晩学のたとえ。
- に 二階から目薬：思うようにゆかず、じれったく感じること。迂遠なやり方で効果の無いこと。
憎まれっ子世にはばかる：人から嫌われたりする者が、かえって世間で幅をきかせるということ。
- ほ 仏の顔も三度：どんなに温厚な人も、繰り返される増長した仕打ちには我慢出来ないということ。
- へ 下手の長談義：話の下手の人に限って話が長く、聞く者が迷惑するということ。
- と 豆腐に 銚かすがい：やっても全く効果の無いことのたとえ。手応えのまるで無いことのたとえ。
- ち 地獄の沙汰も金次第：金の威力は絶大で、何でも可能にするということ
- り 綸言汗りんげんの如し：天子が一度口にした言葉は取り消すことが出来ないというたとえ。
- ぬ 糠に釘：手応えが無く、効き目もないことのたとえ。
- る 類をもって集まる：似たところのある者は、互いに集まって来るものだということ。
- を 鬼も十八：どんな娘でも、年頃になればそれなりに艶やかに美しくなるということ。
- わ 笑う門には福来たる：苦しい時も希望を持ってにこやかに頑張れば、幸せがやってくるということ。
- か 蛙かえるの面に水つら：何をされても平然としていることのたとえ。
かわいい子には旅をさせ：愛する子供は、むしろ厳しく鍛えるべきだというたとえ。
- よ 夜目遠目傘のうち：人の顔が実際より美しく見えるときに言う言葉。
- た 立て板に水：物事が滞とどおりなく進むこと。途切れることなく話すこと。流暢りゅうちょうで話が巧たくみなこと。
- れ 連木れんぎで腹切る：やろうと思っても不可能で、無駄なことのたとえ。「連木」は搦粉木のこと。
- そ 袖振り合うも他生の縁たしよ：人との些細ささいな交わりも、偶然ではなく、深い宿縁ひどから生じているということ。
- つ 月夜に釜を抜く：油断することのたとえ。油断して酷い目に遭うことのたとえ。
- ね 猫に小判：どんなに価値のある物も、その値打ちを知らぬ者には何の意味も無いというたとえ。
- な 濟なす時の閻魔顔：助けられた恩を忘れ去った態度を、恩ある相手に示すことのたとえ。「濟」は返済。
- ら 来年のことを言えば鬼が笑う：一年も先のことをとやかく言っても仕方がないというたとえ。
- む 馬むまの耳に風：何も感じず、効果もないことのたとえ。
- う 氏より育ち：人が一人前になるには、家柄よりも、教育や環境が大切な要素だということ。
- ぬ 鯛の頭も信心から：無価値な物でも、信じる人にとっては有り難い物になるということ。
- の 鑿のみと言えつちば槌：何事にも気が回り、即座の対応が出来ることのたとえ。
- お 負うた子に教えられ浅瀬を渡る：自分より年下の者や未熟な者に教えられることのたとえ。
- く 臭い物に蠅がたかる：悪い者には悪い仲間が集まってくるものだというたとえ。
腐っても鯛：元々優れている物は、少々痛んでも、値打ちが失われにくいことのたとえ。
- や 闇に鉄砲：当てずっぽうのたとえ。向こう見ずな行ないのたとえ。
- ま 蒔かぬ種は生えぬ：原因がなければ結果はないということ。努力無しに良い結果は得られないたとえ。
- け 下駄げたと焼味噌やきみそ：一見すると似ているところがあるが、実際は大違いだというたとえ。
芸は身を助ける：道楽で始めた芸事も、生活に困ったときにはそれが助けになるということ。
- ふ 武士は食わねど高楊枝：貧しくとも気位は高くもって生きるべきだというたとえ。
梟ふくろうの宵企よいたくみ：大きな計画を立てても実現できないことのたとえ。
- こ これに懲りよ道才坊：見せしめに懲りて、二度とするなということ。「道才坊」は僧の名か？
- え 縁つきひと月日：良縁や人生における好機は、あせらず気長に待っていればよいということ。
- て 寺から里へ：物事の筋道が普通とは逆であることのたとえ。

- あ 足元から鳥が立つ：身近な所で意外なことが起こること。突然、思い立って行動すること。
 商いは牛の涎よだれ：商売は飽きないで、牛の涎が長く引くように、気長に辛抱強く営めということ。
- さ 竿の先に鈴：やかましいことのたとえ。口数の多いことのたとえ。
 猿も木から落ちる：名人上手でも失敗することがあるというたとえ。
- き 鬼神きしんに横道おうどうなし：神様は、道理に合わないことや不条理なことはしないということ。
 義理と禪ふんどうし：この世の中で暮らしてゆくには、義理を欠いてはならないということ。
- ゆ 幽霊の浜風：やつれきり、青ざめて元気がない状態を指して言う言葉。
- め 盲めくらの垣覗かきのぞき：何の効果もないことのたとえ。無駄を承知でも、やってみて納得すること。
- み 身は身で通る：人は身の程に応じて生きて行くということ。人は自分本位に暮らすものだということ。
- し 吝しわん坊の柿ぼうの種：けちな人は、何の値打ちのない物まで惜しむということ。
- 系 緑の下系の舞：他人のために苦勞してばかりで、自分は世間に認められないこと。無駄な骨折りのこと。
 栄耀系に餅系の皮系：この上ない贅沢をすること。甚だしくおごり高ぶること。
- ひ 瓢ひょう箆たんから駒こま：思い掛けないことが起こることのたとえ。現実にはあり得ないことのたとえ。「駒」は馬。
 膝頭ひざかぶで江戸行き：苦勞した割に物事がはかばかしく進まないことのたとえ。
- も 餅は餅屋：物事はそれぞれの専門家に任せるのが良いということのたとえ。
- せ 性は道かしこによって賢かしこし：人の性質は、各自の専門の道を通して磨かれ向上するものであるということ。
 せんちで饅頭まんじゅう：陰で一人だけ良い思いをするたとえ。食欲を満たすとき、場所は選べないということ。
- す 雀百まで踊り忘れず：若い時の性癖は、直りにくいものであるというたとえ。
- 京 京に田舎みやびあり：雅な京にも、田舎風の場所や風俗がある。良い所にも、一部には良くない所がある。

上方系いろはカルタの代表的語句 終

江戸系いろはカルタ(犬棒カルタ)の語句

- い 犬も歩けば棒に当たる：無目的に行動しても思わぬ幸運に会う。何かすると災難に遭うことが増える。
- ろ 論より証拠：議論するよりも、具体的な証拠を示すことが大切だということ。
- は 花より団子：風流を解さないことのたとえ。外観より実質を取ることのたとえ。
- に 憎まれっ子世にはばかる：人から嫌われたりする者が、かえって世間で幅をきかせるということ。
- ほ 骨折り損のくたびれ儲け：苦労したのに利益が無く、疲労感だけが残ること。
- へ 尻をひって尻つぼめる：失敗した後で取り繕ったりごまかしたりすることのたとえ。
- と 年寄りの冷や水：老人が、年齢を考えずに、無謀な振る舞いをするもののたとえ。
- ち 塵積もって山となる：僅かな物でも積もり積もれば大きな物になるというたとえ。
- り 律儀者の子沢山：品行方正な者は家庭円満なので子宝に多く恵まれ(貧乏す)ということ。
ぬ 盗人の昼寝：何をするにも理由が有るというたとえ。思惑を抱いて事をするたとえ。
- る 瑠璃も玻璃も照らせば光る：光の当て方で真価や区別がわかる。優れた人物は何処にいても目立つ。
「瑠璃」は青い宝石。ラピスラズリ。「玻璃」は水晶。共に、七宝の一つ。
- を 老いては子に従え：年を取ったら、子供や若い人に任せて従うのが良いということ。
- わ 割れ鍋に綴じ蓋：どんな人にもその人に相応しい人がいるものだということのたとえ。
- か かったいの瘡うらみ：自分より少しでも優れた者を羨むことのたとえ。「かったい」は癩。「瘡」は梅毒。
- よ 葦の髄から天井を見る：狭い見で大きな問題を判断することのたとえ。
- た 旅は道連れ：旅行には、同行する者がいると安心であるということ。
- れ 良薬口に苦し：ためになる忠告は、当人にとっては聞き入れにくいものだということ。
- そ 総領の甚六：長子は大切に育てられるので、お人好しで世事に疎い所があるということ。
「総領」は家を継ぐ子、長子。「甚六」はぼんやりした総領息子をあざけていう言葉。
- つ 月夜に釜を抜く：油断することのたとえ。油断して酷い目に遭うことのたとえ。
- ね 念には念を入れ：十分に注意をした上に、更に注意すること。
- な 泣く面を蜂が刺す：災難が続けざまに起こることのたとえ。
- ら 楽あれば苦あり：いま楽をすると、将来、苦労することになるということ。
- む 無理が通れば道理引っ込む：筋道に合わない事が通ると、物事が正しく行なわれなくなるというたとえ。
- う 嘘から出た真：だますつもりで言ったことが、本当のことになってしまうこと。
- み 芋の煮えたもご存知ない：世事に疎いこと。また、そのような人。
多くは、甘やかされて育った上流の子弟をからかって言う言葉。
- の 喉元過ぎれば熱さ忘れる：どんなに苦しくとも、時が経てば苦しさや受けた恩義を忘れるというたとえ。
- お 鬼に金棒：強い者が更に強い力を得て一層強くなること。これ以上無い力や知恵を具えることのたとえ。
- く 臭い物に蓋：不都合な事や醜聞が露見しないように、その場しのぎを講じて取り繕うことのたとえ。
- や 安物買いの銭失い：安い物を買って得した気分になっても、結局は損になるというたとえ。
- ま 負けるが勝ち：その場で相手に勝ちを譲っても、長い目で見れば自分が優位に立つということ。
- け 芸は身を助ける：道楽で始めた芸事も、生活に困ったときにはそれが助けになるということ。
喧嘩過ぎでの棒乳切り：手遅れなこと。時機を失して効果や意味を為さないこと。「棒乳切」は担い棒。
- ふ 文を遣るには書く手は持たぬ：文字を書けない者が、恋文を書けずに思い悩むこと。
相手に気持ちを伝える方法術の無いことのたとえ。
- こ 子は三界の首枷：子を思う気持ちのために、親が一生束縛されることのたとえ。
「三界」は、人間が輪廻転生する、欲界・色界・無色界。
- え 得手に帆をあげる：好機を逃さず上手に利用することのたとえ。得意になって調子に乗ること。
- て 亭主の好きな赤烏帽子：一家の主が好きな物は、たとえ奇異な物であっても、家の者は同調させられる。

- あ 頭隠して尻隠さず：草むらの雉^{きし}が尾を出したまま自分では隠れたつもりでいるように、間の抜けたこと。
- さ 三辺回って煙草にしょ：やるべきことを片付けてから休憩にしようということ。
念を入れて行なおうと心掛けること。「回って」とは、夜回りして。
- き 聞いて極楽見て地獄：他人から聞いた話と、自分で見て確かめたことが大きく違うというたとえ。
- ゆ 油断大敵：油断は失敗の原因となるから、大きな敵のような物であるということ。
- め 目の上の瘤^{こぶ}：目障りで邪魔な物のたとえ。
- み 身から出た錆^{さび}：犯した悪行から災いを招いて、苦しむことのたとえ。
- し 知らぬが仏：事の事実や真相を知らなければ、かえって穏やかでいられるというたとえ。
また、その様な人をあざ笑って言う言葉。
- 系 縁は異なるもの：男女の結びつきは、常識では判断できない不思議な物だということ。
- ひ 貧乏暇なし：貧乏人は生活に追われてゆとりがないこと。多忙なことの言い訳。評価に対しての謙遜。
- も 門前の小僧習わぬ経を読む：環境が人に及ぼす影響の大きいことのたとえ。
- せ 背に腹はかえられぬ：二者択一を迫られた時、一方をやむなく犠牲にするというたとえ。
差し迫った事態に対しては、他の事を顧みる余裕はないということ。
- す 粋^{すい}が身を食う：粋人と持て囃されることが、結果として身の破滅の元になるということ。
- 京 京の夢大坂の夢：夢ではいろいろの物が見られるということ。良い夢を見るように願うこと。

江戸系いろはカルタ(犬棒カルタ)の語句 終